

授業科目名	看護技術Ⅳ			担当教員	福島 綾子、松中 枝理子	
開講年次	3年前期	セメスター	5	時間数(単位数)	30 (1)	
必修選択	必修	授業形態	演習	使用教室		
授業の目的	健康レベル、ライフステージ、個もしくは集団など、対象の特性に対して、適切な看護を行うための看護技術を習得する。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 侵襲度の高い看護を適切に実施するために必要な基本的知識と、科学的根拠に基づいた原理原則について理解する。</li> <li>・ 援助の必要性を判断、実施し、その結果を次の看護につなげる思考プロセスや判断能力を培うことができる。</li> </ul>					
授業計画						
回	授業内容	授業方法	学修課題 (予習・復習)	取組時間	担当者	
1	授業ガイダンス 看護技術を適切に実践するための要素とは	講義	予習：系統看護学講座基礎看護技術Ⅰ序章 「看護技術を学ぶにあたって」 p. 2～15、系統看護学講座基礎看護技術Ⅱ「看護技術の基盤」 p.2～7	1時間	福島 松中	
2	【与薬の技術：注射】 筋肉内注射	講義	予習：系統看護学講座基礎看護技術Ⅱ第9章 「注射」 p. 288～296、302～306 復習：演習に向けてチェックリストの作成	1時間	福島	
3	【与薬の技術：注射】 筋肉内注射	演習	予習：事前課題（配布） 復習：事後課題（配布）	各 1時間	福島	
4						
5	【与薬の技術：注射】 技術テスト	演習	予習： 技術テストに向けての技術練習（オフィスアワーを活用する） 復習：技術テストの振り返り	予習 2時間 復習 1時間	福島 松中	
6						
7						
8	【症状・生体機能管理技術：検体検査】 血液検査	講義	予習：系統看護学講座基礎看護技術Ⅱ第11章「血液検査」 p. 357～362 復習：演習に向けてチェックリストの作成	各 1時間	松中	
9	【症状・生体機能管理技術：検体検査】 血液検査	演習	予習：事前課題（配布） 復習：事後課題（配布）	各 1時間	松中	
10						
11	【与薬の技術：注射】 静脈内注射／点滴静脈内注射	講義	予習：系統看護学講座基礎看護技術Ⅱ第9章「注射」306～322 復習：演習に向けてチェックリストの作成	各 1時間	松中	
12	【与薬の技術：注射】 静脈内注射／点滴静脈内注射	演習	予習：事前課題（配布） 復習：事後課題（配布）	各 1時間	松中	
13						

14	【死の看取りの援助】 死にゆく人々と周囲の人々へのケア 死後のケア	講義	予習：系統看護学講座基礎看護技術Ⅱ第15章「死の看取りの援助」p.470～490 復習：事後課題（配布）	各 1時間	福島
15	定期試験を終えてのフィードバック	講義	予習：定期試験範囲の内容について理解不十分な箇所について事前に学習しておく	1時間	福島 松中
先行履修科目	2年後期までに履修すべき全ての科目				
テキスト	茂野香おる 他：系統看護学講座専門分野1基礎看護学〔2〕基礎看護技術Ⅰ，医学書院，2015. 茂野香おる 他：系統看護学講座専門分野1基礎看護学〔3〕基礎看護技術Ⅱ，医学書院，2017.				
参考文献	適宜、提示する				
メッセージ	看護技術Ⅳで取り扱う技術は患者にとって既習の技術よりも侵襲度の高い看護技術です。看護者としての責任を自覚しながら演習に参加することを希望します。また、本科目は演習科目です。個人の学習にとどまらず、グループ／チームで課題に取り組み、互いに高めあいながら学習していくことを期待しています。				
科目の位置づけ	看護技術Ⅰ～Ⅲで学習してきた基本的な看護技術を応用し、患者にとってより侵襲度の高い看護技術について演習を通して学ぶ。 また、単なる技術の習得に留まらず、実施の必要性についてアセスメントするとともに、実施中、および実施前後の患者の状態を観察、アセスメントする必要性と、その実際についても学ぶ。				
ディプロマポリシーとの関連	人間の尊厳と権利を擁護する力	自己教育力	チームで働く力	問題解決力	看護の専門性を探究する力
		○		◎	
評価方法	筆記試験 60%、事前・事後課題 20%、技術試験 20% ※なお本科目は演習科目であるため、講義・演習への遅刻や欠席は、到達目標の達成に大きく影響を及ぼす。よって、遅刻・早退：回ごとに－1点、欠席：回ごとに－2点を減点する。				